

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【担当当局】 人権生活環境部

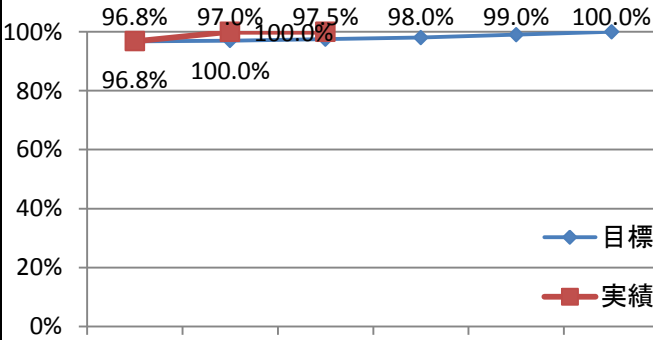
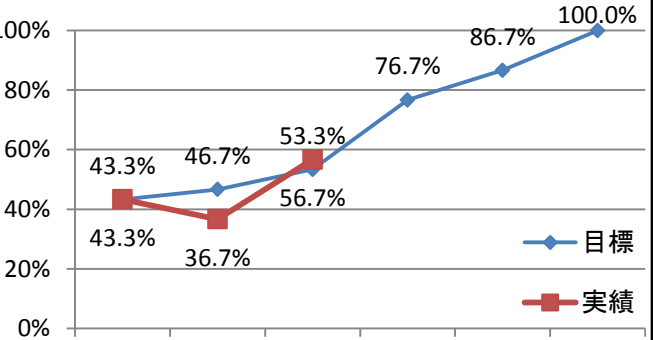
・人権に対する意識が高い地域であり、人権や差別についての正しい知識や情報を提供し、一人ひとりの人権意識のさらなる高揚を図ります。

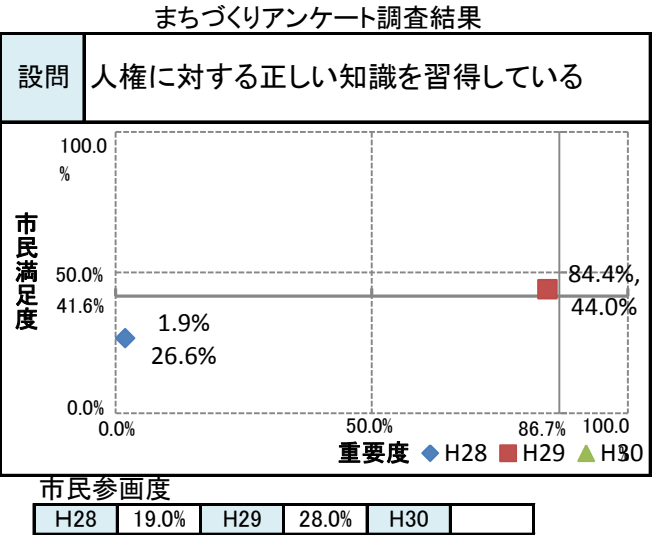
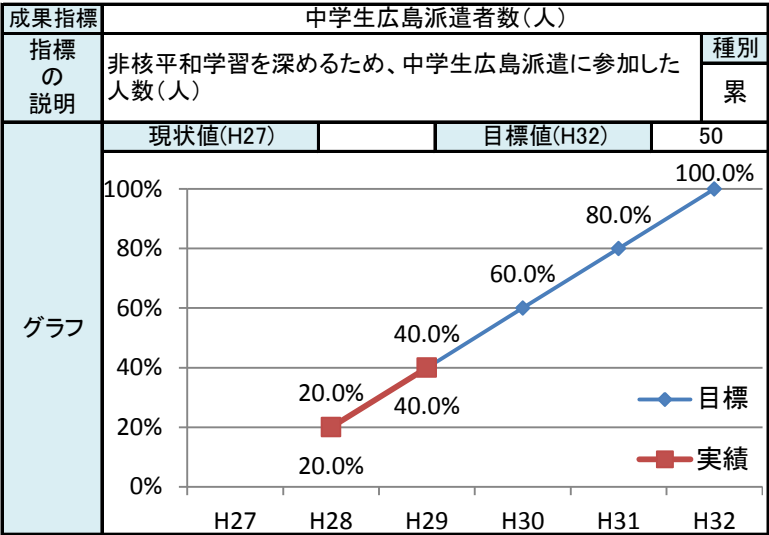
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算
		H29決算
人権啓発の推進 市民一人ひとりが、さまざまな人権問題を自分自身の課題とし、その解決に向けて努力できるよう、人権講演会や人権フェスティバル、人権問題地区懇談会など、あらゆる場、あらゆる機会を通じて人権啓発活動や人権教育を推進します。また、地域での人権教育リーダーの育成をめざします。	市民が、部落問題をはじめあらゆる差別問題などの人権問題を自分自身の課題と捉えられるよう、地区別懇談会等を実施し、人権啓発、人権教育を推進した。 また、連続講座を4箇所で開催し、各地域における人権リーダー養成に努めた。	14,902 千円
		13,413 千円
人権擁護と救済 各支所管内で人権擁護委員による人権相談窓口を開設します。また、法務局等と連携して人権侵害の発見と防止、救済と擁護を推進します。	6支所管内において、人権擁護委員の協力を得て、毎月1回人権相談窓口を開設した。 また、法務局、関係機関・団体と連携して、人権侵害の発見と防止に努め、救済と擁護に努めた。	0 千円
		0 千円
非核平和の推進 幅広い年代の市民が集い、平和に関心を持つために、戦争体験の伝承を含めた総合的な平和学習の機会を提供します。	非核平和推進事業「平和の集い」を開催し、非核平和推進中学生広島派遣の報告や戦争体験者のや平和への思いを発信するとともに、平和学習コーナーでは、戦争の悲惨さと平和への願いを次世代につなぐ取り組みを行った。	817 千円
		823 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増＝単年度の目標（増加を目指す） 減＝単年度の目標（減少を目指す） 累＝累積値の目標

成果指標	人権問題地区懇談会の参加者数				人権相談の相談者数						
指標 の 説明	地区懇談会(学習)に参加した人数（人）			種別	人権侵害に関する人権相談を受け付けた人数（人）			種別			
				増				増			
グラフ	現状値(H27)	4838	目標値(H32)	5000 <th>現状値(H27)</th> <td>13</td> <th>目標値(H32)</th> <td>30</td>	現状値(H27)	13	目標値(H32)	30			
											
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H27	H28	H29	H30	H31



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

- ・指標1は、H29年度実績値(5683人)とH28実績値(5222人)から461人の増となり、H29目標値(4,875人)を、808人上回った。その要因は、市民の人権意識が徐々にではあるが向上してきたことである。しかしながら、各地区における人権リーダーの育成を図ることが課題であり、懇談会未実施の地区に対する働きかけが課題である。
- ・指標2は、H29年度実績値(17人)とH28実績値(11人)から20%増となった。H29目標値(16人)より1人上回った。定期的な人権相談の周知に努めた、また初期相談からの対応として、50回におよび、きめ細かな対応ができた。しかしながら、人権についての相談はしにくいという要因から、引き続き、きめ細かな周知と丁寧な取り組みに努めることが課題であり、さらなる職員の相談におけるスキルアップが必要である。しかし、LGBTの人権問題については、市民への更なる理解促進が必要であり、また、当事者からの専門的な相談に対応するため、今後は専門の相談員の育成が課題である。
- ・指標3については、戦争体験者が減少する中、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えるために、市内中学生を広島に派遣し、非核平和への取り組みを行う。まちづくりアンケートについては、人権の知識の満足度が高くはなく、講演会に幅広い年代が参加できる工夫を凝らすことが課題である。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初予算	成果の方向
人権啓発の推進 市民一人ひとりが、人権の問題を自らの問題とするために、人権リーダーの育成事業や情報提供・研修会等を行っているが、各地域から割り振られた人選であるため、地元根拠した人権問題の取り組みが継続していないことが課題である。	市民一人ひとりのところに届く、講座や研修会等をさらに工夫していくとともに、市民からの主体的な取り組みによる開催となるように、地元根拠した人権リーダーの育成に努め、引き続き教育関係者も含んだ行政との官民一体となった取り組みを検討し、各地域の実情にあった人権問題地区懇談会の開催を実施する。	13,266千円	→
人権擁護と救済 市全体としての人権相談が少ない現状であり、あらゆる媒体を通しての開設の周知が課題である。また、法務局との連携については、定期的な情報交換の体制整備が課題である。	LGBTの課題に対応した相談体制(特に児童生徒を対象)の構築を検討し、広報やあらゆる媒体を通して市民に開設日の周知を引き続き図る。また、法務局との更なる連携を図り、インターネットモニタリングや差別事象・事件の情報の提供を定期的に行う。	0千円	→
非核平和の推進 戦争経験者の高齢化に伴い、戦争の真の悲惨さを伝える機会が減少し、平和の尊さの伝承の機会が減少することが課題である。	戦争体験者の思いを受け継ぐために、市内の中学生とともに、体験談等の聞き取りを行い、記録として映像化し、あらゆる機会を通して、戦争について考える機会、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える取り組みを行う。	877千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】 人権生活環境部

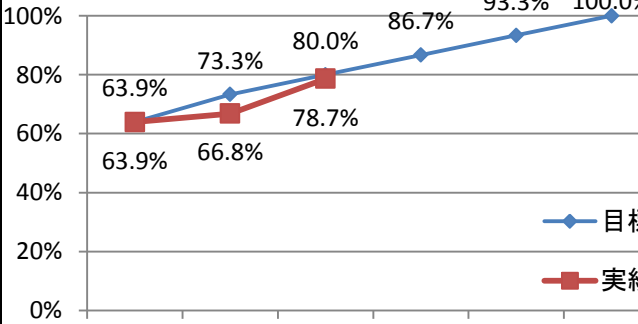
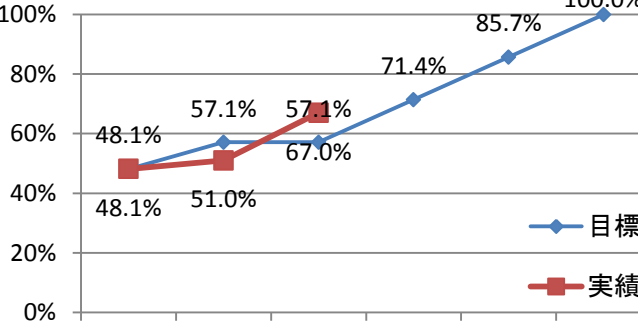
- ・市民一人ひとりが、部落差別の解消に積極的に参画してきた経緯があり、差別解消への展望を持って取り組みを推進します。
- ・部落差別の解消の取り組みを他のあらゆる人権問題の解決につなげます。

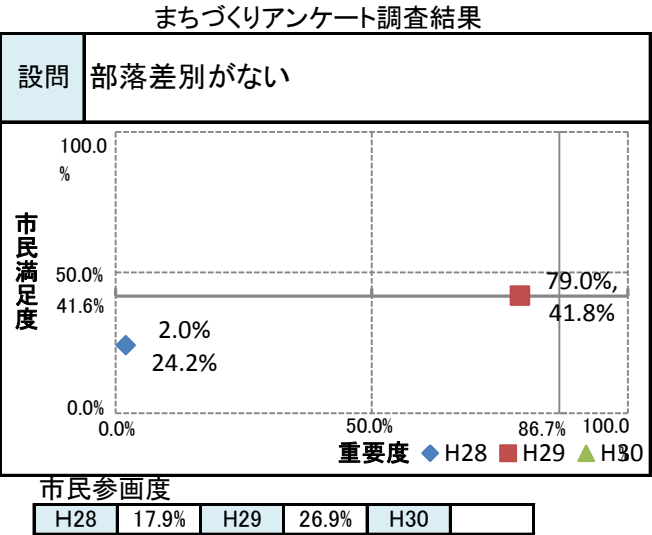
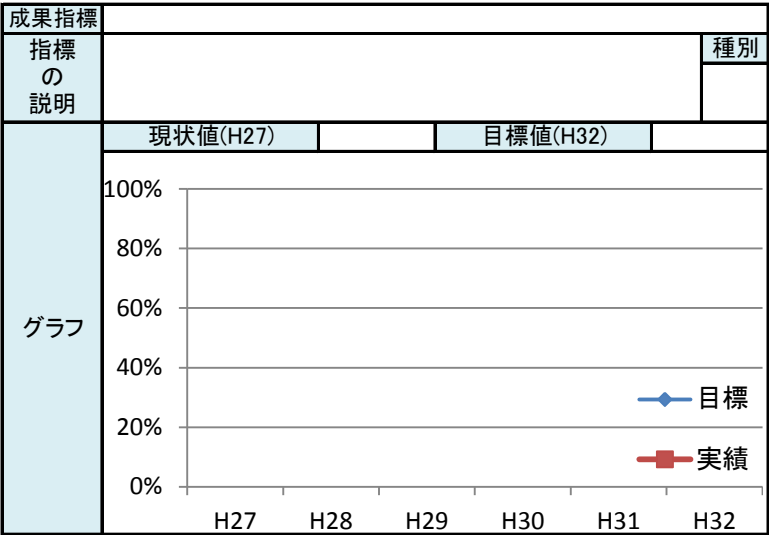
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算
		H29決算
同和施策推進計画の推進 同和問題の早期解決の視点に立った取り組みを進めるため、同和地区の実情や施策ニーズに基づく生活困窮者への対策などを一般施策の中で体系的に整理し、実施します。	H28年度に実施した生活実態調査の分析から各課題の施策検討を洗い出し、各部署との推進調整及び評価を行う同和施策推進会議や審議会で検討・協議を行い第3次伊賀市同和施策推進計画を策定した。	20,582 千円
		19,582 千円
隣保館・児童館・教育集会所事業 隣保館は、人権啓発の拠点としての人権同和問題に関する事業のほか、各種相談事業を実施します。児童館は、放課後の児童の活動の拠点として、広く仲間づくりや世代間交流事業などを実施します。教育集会所は、社会的背景により、学力・進路保障が不十分な児童生徒に学習の機会を確保し、学力保障に努めます。また、人権同和教育活動及び生涯学習の充実を図ります。	隣保館において人権、生活、福祉など各種相談事業を実施し、関係機関と連携した住民のニーズに応じた自立支援を図った。 教育集会所では学力保障や人権同和教育にかかる取り組みを、児童館においては仲間づくりや世代間交流を実施した。	108,862 千円
		104,643 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標		人権大学講座受講者数				人権同和問題に関する学習機会や相談の機会が保たれていると感じている人の割合					
指標 の 説明	人権・同和問題に関する連続講座の受講者数（人）			種別	まちづくりアンケート調査における「はい」「どちらかといえばはい」の回答率（％）			種別			
				増				増			
グラフ	現状値(H27)	959	目標値(H32)	1500	現状値(H27)	33.7	目標値(H32)	70.0			
											
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H27	H28	H29	H30	H31



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

- ・指標1は、H29年度実績値(1,180人)とH28年度実績値(1,002人)から178人増となり、H29目標値(1,200人)を20人下回った。目標値を20人下回ったもののH28年度の受講者数より135人も上回り、その要因は連続講座の募集周知と人権同和問題に関する意識の向上が原因であると考えられるが、より目標値に近づけるよう取り組んでいく。
- また、数多くの人権リーダー育成のためにはまだまだ受講者数が少ないのが課題である。
- ・指標2は、H29年度実績値(46.9%)とH28年度実績値(35.7%)から11.2ポイント増となり、H29目標値(40.0%)を6.9ポイント上回った。その要因は人権問題に関する学習会や相談に関する周知に努めたためであると思われる。
- さらに、開催場所、講師の選定、周知の方法などを工夫して、多くの市民に参加してもらいやすい手法を検討していく。
- ・まちづくりアンケートについては、部落差別解消への重要度・市民参画度がともに高くなっており、同和問題に関する意識の向上が進んできていると考えるが、満足度が高くはなく、この問題の理解を進めるより一層の取組が必要である。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初予算	成果の方向
同和施策推進計画の推進 同和問題の早期解決の視点に立った取り組みを進めるため、同和地区の実情や施策ニーズに基づく生活困窮者への対策などを一般施策の中で体系的に整理し、実施する必要がある。	・生活実態調査の結果を基に、課題となる部分の洗い出しと分析を行い、同和施策推進会議(庁内会議)や同作業部会において問題と課題の整理を行い第3次同和施策推進計画を策定し、効果的で具体的な施策事業を推進するため検討を行います。 ・同和問題の理解と認識を深め、豊かな人間関係を築いていけるよう、工夫した啓発や学習会等の機会提供等、問題解決のための取組を継続していく。	20,813千円	→
隣保館・児童館・教育集会所事業 隣保館は、人権啓発の拠点としての人権同和問題に関する事業のほか、各種相談事業を実施します。児童館は、放課後の児童の活動の拠点として、広く仲間づくりや世代間交流事業などを実施します。	隣保館・児童館・教育集会所は地域の生活の拠点として今後も継続して各種事業や生活相談に応じ対応していく。各施設に来て相談する人のみを対象とするのではなく、問題や課題を抱えて潜在している住民に対してこちらから声かけをしていける体制を整える。	109,798千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

人権生活環境部

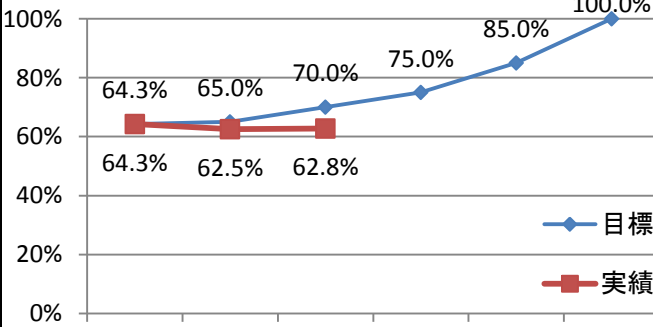
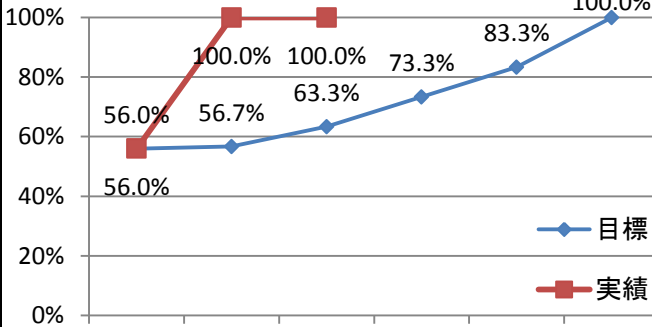
・伊賀市パートナーシップ宣誓制度をはじめとする性的少数者への人権保障の取り組みを通して、性の多様性に関する理解を含め、男女の平等意識や共同参画意識を育てていくことで、人権尊重の理念を高め「だれもが輝く男女共同参画社会の実現」をめざします。

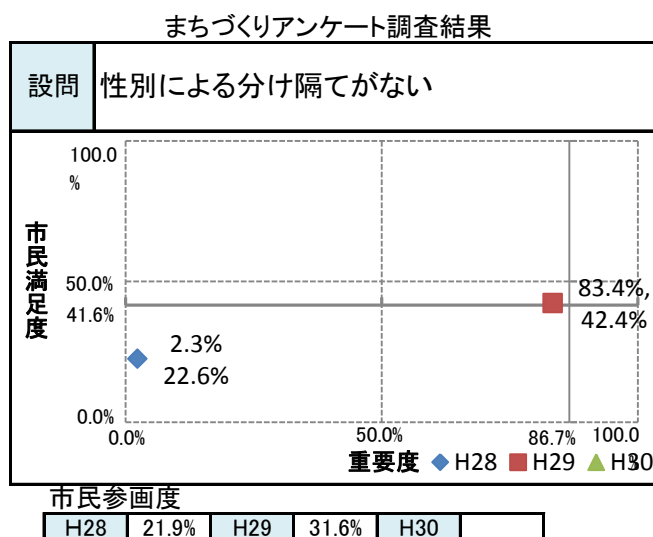
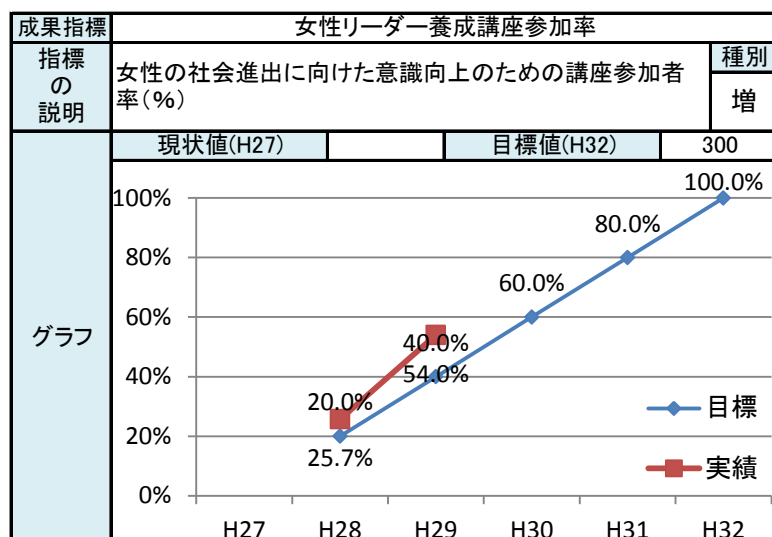
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算 H29決算
男女の参画拡大 政策・方針決定過程への女性登用・参画を促進するとともに、職業生活における女性の活躍促進や地域社会での男女共同参画について啓発に努めます。また、女性のエンパワメントを進め、共同参画の意義や必要性について理解促進に努めます。	男女共同参画フォーラムや女性のエンパワメントを進める連続講座等を開催し、男女の共同参画の理解促進を図った。 また、政策方針決定過程への女性登用推進のため、女性登用率の低い審議会に関するヒアリングを行い、登用率の向上を助言した。	1,699 千円
		1,348 千円
男女の人権尊重 男女平等・共同参画意識を広く市民や事業者浸透させるため、講演会や講座を開催し、啓発・学習の機会を提供します。性別に起因するあらゆる暴力を許さないという意識を高めるとともに、困難を抱える人に対して相談窓口を開設し、法的知識や助言を行います。	小学生の社会見学時に、性別による固定的役割分担意識を払拭していくため、わかりやすい事例を挙げ理解を進めた。「女性に対する暴力をなくす運動」として、三重県や県内の男女共同参画センターと連携してDV防止の取り組みを行った。また、無料の女性法律相談を開設し、法的知識の助言を行った。	1,171 千円
		933 千円
ワーク・ライフ・バランスの推進 事業者に対し、企業訪問やイクボス講座などのセミナー開催時に、働き方改革を通じた、育児・介護休業制度や時間外労働の制限、勤務時間の短縮など、仕事と生活の両立支援にかかる制度の定着及び利用促進について企業訪問やセミナー開催により働きかけます。	伊賀市内企業45事業所・団体へ「ハタラクカタ応援宣言」の取り組みを行い、地域への広がりを促した。人権学習企業等連絡協議会と連携し、「イクボス講座」を実施した。「男の料理教室」の開催と、女性の社会進出を支援する男性リーダー養成連続講座を開講し、男性の家事参加、家庭での男女共同参画を促した。	475 千円
		250 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	審議会等への女性登用率				子育てや介護が男女問わずできるような雰囲気や環境があると思う市民意識調査の割合						
指標 の 説明	審議会等の委員のうち女性委員の割合（％）			種別	まちづくりアンケート調査における「はい」「どちらかといえばはい」の回答率（％）			種別			
				増				増			
グラフ	現状値(H27)	25.7	目標値(H32)	40.0	現状値(H27)	16.8	目標値(H32)	30.0			
											
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H27	H28	H29	H30	H31



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

- ・指標1は、H29年度実績値(25.1%)とH28現状値(25.0%)から0.1ポイント増となったが、要因としては、もともと女性の登用率が低い状態で、2015年に審議会の統合及び定数の見直し(員数減)があり、その結果、女性の占める割合が減ったため。各審議会における女性の登用に対する意識の希薄さ、女性自身の参画意識の低さも課題である。
- ・指標2は、まちづくりアンケート調査の設問「暮らしの現状について」の市民参画度で「はい」「どちらかといえばはい」の回答率(%)が、54.0%と、「男女を問わず、子育てや介護をするような雰囲気や環境」が一定程度、男女とも意識として浸透してきたことにより、H29年度で目標数値に達した。今後は、実際に「男女を問わずに、子育てや介護」が分担されていく環境整備が必要である。
- ・指標3は、女性が社会のあらゆる場面で能力を発揮するためのエンパワメントを高める講座を受講し、知識を得、また自信と意欲を持ってあらゆる場面で能力を発揮できる環境整備(地域や労働面等)が課題である。
- ・まちづくりアンケートについては、共同参画の満足度が高くはなく、男女がともにいきいきと活躍できる社会実現の重要性を啓発することが課題である。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初予算	成果の方向
男女の参画拡大 女性のエンパワメントを図ることと並行して、男性の意識改革と理解の促進が必要である。	引き続き、女性向けの講座の開催と共に、男女が一緒に学べる講座を開催する。 また、地域や職場のあらゆる分野で助言・行動ができる男性の育成に向け、女性活躍推進に関する第2期男性のサポーター連続養成講座(3年間・年5回・年15名)を開催するとともに、女性の社会進出を支える男性リーダーとして人材バンクに登録し、活動の場を提供する。	1,654 千円	→
男女の人権尊重 男女の人権を尊重しあい、誰もが暮らしやすいと感じる社会にするためには、固定的な性別役割分担意識の払拭が不可欠である。また、「女性に対する暴力をなくす運動」として期間を設けて取り組んでいることを広く周知する必要がある。	家庭や地域において、性別による固定的役割分担意識を払拭していくため、講演会や研修会を実施し、幅広い年代の市民の参加を促し、男女の人権尊重の推進に取り組む。 「女性に対する暴力をなくす運動」を推進するために、引き続き、県内の男女共同参画センターと連携して、県と共にDV防止の取り組みを行う。	1,166 千円	→
ワーク・ライフ・バランスの推進 ワーク・ライフ・バランスの推進は、事業者の理解と積極的な取り組みが必要である。男性の家事自立を推進する必要がある。	企業に対して積極的にワーク・ライフ・バランスの推進を図ることを目的として、引き続き、「ハタラクカタ応援宣言」の協賛企業を増やし、市の関係部署と連携し「イクボス」の取り組みへの理解促進に努める。 また、積極的に男性が家事に関われるよう、知識等を提供する講座の実施を継続する。	384 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

教育委員会

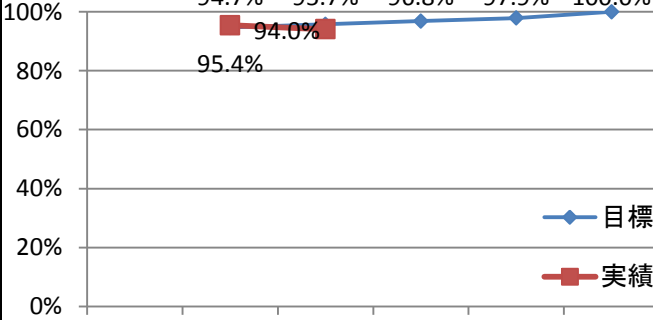
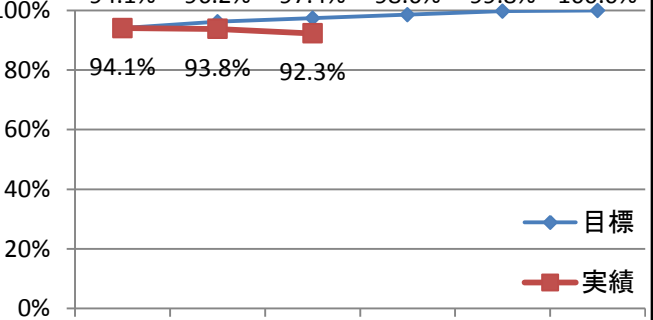
- ・郷土について学ぶ教材を作成し、推進することにより、地域に愛着や誇りを持ち、伊賀の魅力を発信できる子どもの育成をめざします。
- ・地域住民が、地域の学校(園)へ協力したり、参画したいと思えるような魅力ある学校・幼稚園をめざします。

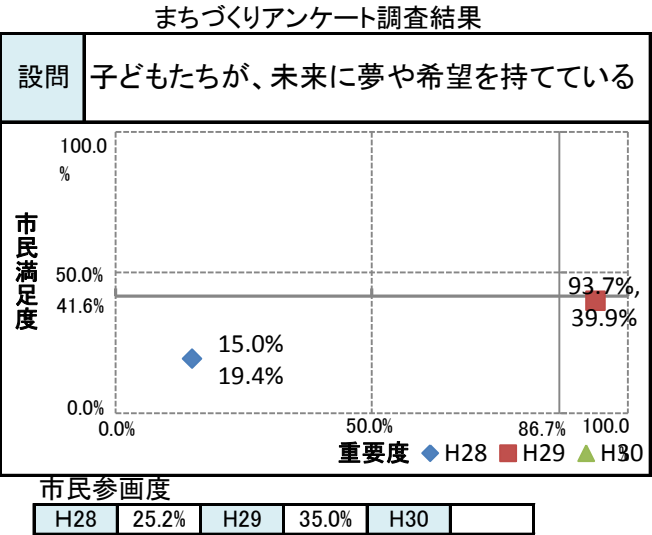
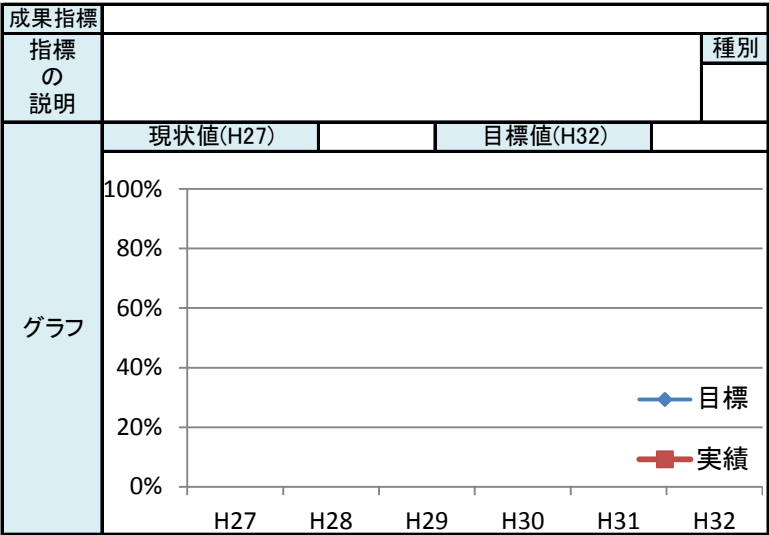
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算 H29決算
地域とともに学校マニフェスト推進事業(学校経営品質向上事業) 確かな学力の保障、人権・同和教育の充実、キャリア教育の推進を3本柱に、子どもたちの自立をめざすために取り組むべき努力目標、具体的な取り組み内容等を学校(園)マニフェストとして作成し、保護者や地域の方に公表し、評価を受け、改善を行い、学校(園)経営の質の向上に努め、保護者・地域に信頼される学校・幼稚園づくりをめざします。	・学力向上、人権・同和充実、キャリア教育推進を柱に学校マニフェストを作成・公表し、児童生徒・保護者等からアンケートによる評価を行い実践した。 ・8月に中間面談、2月に期末面談を行い、取組の評価を行い、次年度の改善にいかした。	15,637 千円 14,406 千円
学力向上等推進事業 確かな学力の形成を図り、子どもたちの進路保障に努めます。学力向上に向けては、伊賀市学力向上プロジェクト委員会機能の強化、教職員研修体制の充実、教育アドバイザーの派遣を行うことで、教師の授業力や児童生徒の学習意欲の向上に努めます。また、「家庭学習・読書の手引き」を活用し、保護者と連携して、学力向上の取り組みを推進します。	・学力向上プロジェクト委員会を組織し、全国学力・学習状況調査や標準学力検査から市の学力課題、生活課題を分析し、各校での授業改善や家庭と連携した家庭学習の取組、生活習慣の改善に取り組んだ。教職員研修体制の充実をはかるため、教育研究センター研修講座を23回実施し、のべ1504人が受講した。	26,100 千円 24,312 千円
人権同和教育推進事業 部落差別をはじめ、あらゆる差別を許さず、多様性を尊重し合える実践的な児童生徒の育成に向けて、地域の実態をとらえながら、幼稚園・小中学校の系統的な学習を推進します。教職員が自らの人権意識や感性を磨く研修の機会を大切に、差別のない、人権が尊重される学校・幼稚園づくりをめざし、取組を保護者・地域住民にも発信し、啓発に努めます。	【伊賀市学校人権・同和教育部会】授業交流会を小学校3校、中学校1校実施した。推進委員研修会を年2回実施した。部落問題を考える小・中学生の集いに参加した児童生徒を中心とした還流会や各校人権の集い等を実施した。	11,248 千円 10,497 千円
キャリア教育推進事業 児童生徒が「生きる力」を身に付け、直面する様々な課題に柔軟にかつ、たくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるように、教育活動全体を通じて実施します。郷土教育を推進し、伊賀市の素晴らしさを語り、ふるさと伊賀を担うことができる力を育てます。主権者意識を養うとともに、社会の形成に参画していく意識を高めるよう、主権者教育を進めます。	・自分発見！中学生地域ふれあい事業を活用し、全中学校で、職場体験活動を3日間実施した。 ・追手門学院大学 三川俊樹氏を講師に招き、キャリア教育研修会を開催した。キャリア・カウンセリングの視点から日常の体験や気づきの大切さを意識して取り組むことを確認した。	0 千円 0 千円
児童生徒支援事業 障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導や必要な支援を行います。また、「伊賀市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期解決に向け、学校・家庭・地域が連携していじめ問題に対応します。	・伊賀市いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止・早期解決に向け、学校・家庭・地域が連携して対応した。 ・いじめ問題対策連絡協議会を年2回開催し、関係機関と諸課題を共有し、効果的な対策について協議した。 ・生活学習支援員、特別教育支援員を配置し、児童生徒のニーズにあった支援を行う体制をつくった。	739,224 千円 691,706 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	市民の意見を取り入れて学校改善を行っていると感じている保護者の割合				将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合						
指標 の 説明	保護者や学校評議員や学校評価委員等の意見を取り入れて、学校改善に努めていると感じている割合（％）			種別 増	全国学力・学習状況調査における「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合（％）			種別 増			
	現状値(H27)		目標値(H32)	94.0	現状値(H27)	79.2	目標値(H32)	84.2			
グラフ											
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H27	H28	H29	H30	H31



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H29年度実績値(88.4%)となり、H28年度実績値(89.7%)を1.3ポイント、H29目標値(90.0%)を1.6ポイント下回った。
指標2は、H29年度実績値(77.7%)となり、H28年度実績値(79.0%)を1.3ポイント、H29目標値(82.0%)を4.3ポイント下回った。県・全国と比較すると、小学校は「やや下回っている」、中学校は「やや上回っている」という結果となった。今後も各校で、「学力の向上」「人権同和教育の充実」「キャリア教育の推進」を柱にマニフェストを作成し、最終的に自分の進路を切り開いていく力、他者と支え合いながら社会を創っていく力を身につけることができる取組を組織的、継続的に小中学校が連携して展開する必要がある。
まちづくりアンケートの結果、市民満足度が39.9%、重要度が93.7%であった。「重要度が高く、満足度が低い」となったことから、今後一層学校での取組を保護者や地域の方に発信していく必要がある。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初予算	成果の方向
地域とともに学校マニフェスト推進事業(学校経営品質向上事業) ・経済的・家庭的状況が厳しい児童生徒に対する支援の必要性が高まっている。	・各校区の学校支援地域本部をさらに充実し、引き続き各校の課題を解決するため地域とともに取り組む。	16,036 千円	→
学力向上等推進事業 ・平成29年度の全国学力・学習状況調査では、全国平均より小学校は「ほぼ同じ」、中学校は「やや下回る」結果である。	・調査結果を分析した授業力の向上、安心して学べる環境づくり、小中学校の連携、保護者・地域との連携に組織的に取り組む。	25,407 千円	→
人権同和教育推進事業 ・他者を傷つける発言が多く報告されている。	・他課と連携した会議を実施し「他者を傷つける発言」についての課題解決を図る。	10,833 千円	→
キャリア教育推進事業 ・全体計画、指導計画の見直し、職場体験の見直しを行う。	・伊賀市キャリア教育研修会での実践発表を、昨年度の市内1校から、本年度は小中各1校として、より具体的な実践に学べるよう実施する。 ・小学校は中学校と連携することで、必要な職場体験のみ実施する。	0 千円	→
児童生徒支援事業 ・生徒指導上の課題に対する未然防止・早期解決にあたる。 ・支援を必要とする児童生徒が増加傾向にある中、児童生徒のニーズにあった支援が十分にできにくい状況がある。	・包括的生徒指導モデル校推進事業を中学校1校で実施する。ハイパーQ-Uの結果を分析し、それを踏まえた実践について指導いただくとともに、県SSWを招いて事例検討会を行う。	747,349 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

教育委員会

- ・一人ひとりが自分らしく生きられるよう明るく快適な教育環境づくりを進めます。
- ・児童生徒が安全・安心で充実した施設設備の小中学校で学べるまちづくりを進めます。
- ・小中学校の児童生徒に安全・安心な学校給食を提供し、充実した子育てができるまちづくりを進めます。

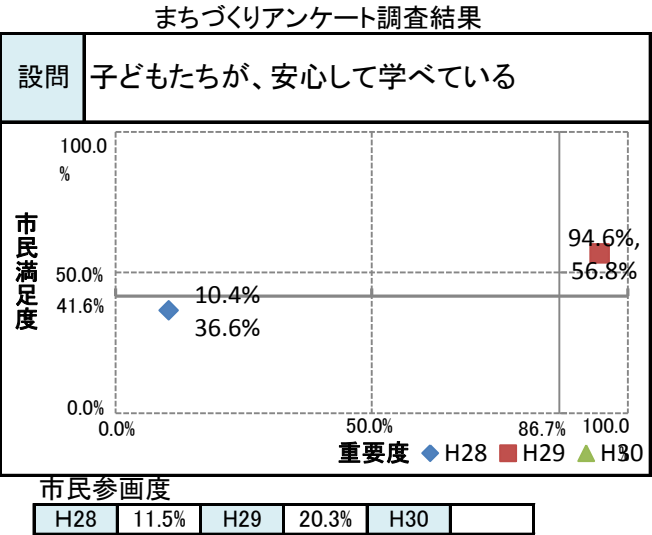
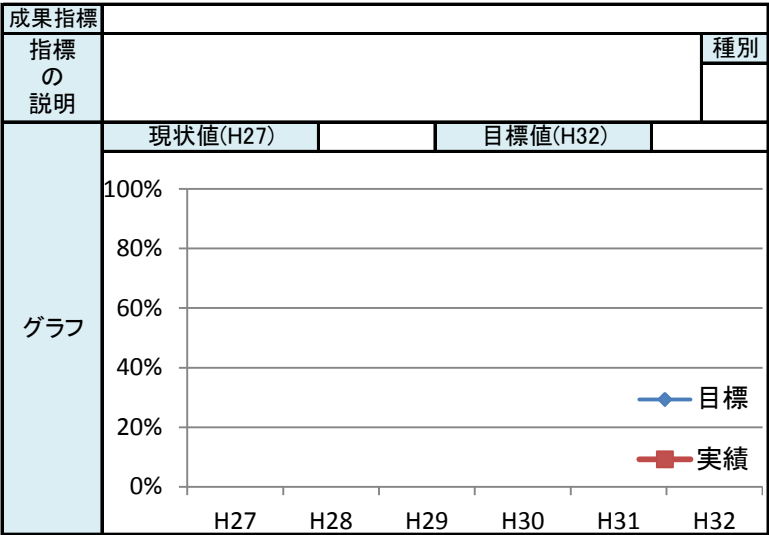
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算 H29決算
校区再編事業 小学校については、上野北部地区、上野南部地区、阿山地区の統合を進めるとともに、中学校についても統合に向けた検討を進めます。	(上野北部地区)長田小学校と新居小学校を統合し、新新居小学校を建設するため、校舎建設に着手しました。 (上野南部地区、阿山地区)地域、学校、保護者と平成32年4月をめざした統合の是非について、懇談会を開催しました。	0 千円 0 千円
学校施設整備事業 児童生徒の生活環境を改善するため、小学校の普通教室に空調設備を設置し、小中学校のトイレの洋式化を進めます。	柘植・西柘植・壬生野小学校の空調設置工事を実施しました。平成32年度から統廃合する長田小学校を除く全小中学校の普通教室への空調整備は終了しました。 また緑ヶ丘中学校のトイレの改修を行いました。	834,621 千円 770,433 千円
給食センター運営管理・建設事業 小学校給食の基本方針に基づき新給食センターの建設を民間資本の活用を前提に進めます。自校からセンターに切り替える学校の受入口の改修を進めます。校区再編による仮設校舎の時期に対応した給食センターの運営管理を行います。	・PFIによる小学校給食センター建設を行うため、業者選定を行いました。 ・大山田給食センターの改修工事を実施し、9月から新居小学校への配食開始に対応した運営管理を行いました。	254,603 千円 212,643 千円
通学対策事業 学校統合など過去のしがらみにとらわれず地域の実情に応じた通学のあり方を再検討し、安全・安心とあわせて公共交通手段の利用など効率的なスクールバスの運営管理を行います。	伊賀市全体の通学のあり方を検討し、改善を図る必要があり、総合政策会議において、平成32年度からの改善の方針をお認め頂きました。 また、市の交通担当とも調整をおこない、平成32年4月からの通学方法の見直しに努めました。	246,701 千円 186,616 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	空調設備の整備率				新小学校給食センターの建設			
指標の説明	小中学校の普通教室に空調設備が整備されている学校の割合 (%)	種別	増		新小学校給食センターの建設	種別	増	
	現状値(H27)	75.0	目標値(H32)	100.0	現状値(H27)		目標値(H32)	
グラフ								



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、残る三校について、29年度空調整備を実施したため、全小中学校の普通教室への空調整備は終了しました。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初予算	成果の方向
校区再編事業 伊賀市校区再編計画により進めてきた小中学校の統廃合について、未実施である校区の再編検討並びに実施校の整備を行います。	・(上野北部地区)新校舎棟建設を行います。旧校舎や仮設校舎の解体を行います。設立準備会を開催し、校名、校歌、通学方法の検討など、開校に向け準備を進めます。 ・(阿山地区)玉滝小学校の阿山小学校への統合について、地域・学校・保護者と協議を進めます。 ・(上野南部地区)依那古、神戸小学校の統合について、地域・学校・保護者と協議を進めます。	0 千円	→
学校施設整備事業 ・児童生徒の学習、生活の場である学校施設は、老朽化が進行し、維持管理上の懸案事項も多く抱えています。また、時代の変化に伴う課題として、トイレ便器の洋式化、温暖化現象による平均気温の上昇に伴う教室環境の改善が必要です。	予防保全型の計画的な修繕を行い、施設の適切な維持管理と長寿化の視点に立った施設・設備の保全を計画的に行う。 ・大規模改造を行う時は、ユニバーサルデザインの配慮など、安全性を確保するとともに機能を確保する。 ・阿山小学校校舎の大規模改造工事、柘植小学校のプール塗装工事を実施します。 ・西小学校屋内運動場の大規模改造のための設計業務を実施します。	224,293 千円	→
給食センター運営管理・建設事業 ・伊賀市小学校給食センター建設基本計画に基づき、給食センターをPFI事業で整備し、平成31年度完成を目指します。	・平成31年度新給食センター完成並びに運営のため、事業者を決定し、契約を締結します。 ・新給食センターからの給食受入のため、該当校の改修設計を実施します。	203,099 千円	→
通学対策事業 学校統合や合併前の制度をそのまま運用しており、個人負担の有無、対象児童・生徒も、各学校で異なっていることから、学校間、地域間の不公平感があります。また、校区再編により、スクールバス運行路線が多く、財政負担も大きくなっています。	・遠距離通学者については、公共交通機関を基本として通学することとし、関係各課と調整します。 ・通学に関わる補助金等の見直しを行います。 ・通学方法、補助金の見直しについて、学校、保護者等への説明会を開催します。 通学方法、補助金の見直しは、平成32年4月からの実施を目指します。	250,363 千円	→
廃校施設活用・処分 校区再編の進展により多くの廃校施設を抱えています。学校施設は、他の公共施設と比較すると、敷地や建物の面積規模が大きく、地域住民による活用意向のない廃校施設は、市民の貴重な財産として、長期にわたる全面的な活用が必要です。	・個々の施設別に市事業による活用に加え、公共的・公益的な団体による事業や民間事業による活用も視野に、部局横断的に市有財産の「有効活用」、「総量縮減」に引き続き取り組みます。		→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【担当当局】

教育委員会

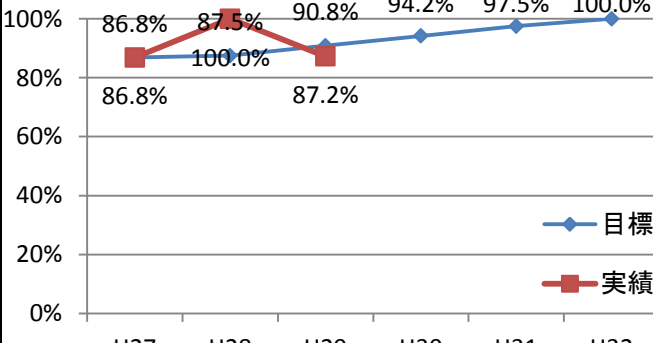
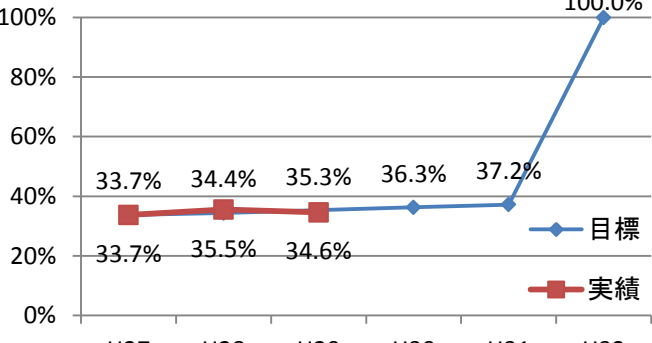
- ・生涯学習センターや公民館等で学習したことを、自主的なサークル活動につなげるとともに、各地区公民館や分館のある地域では、活発にサークル活動が継続して行われることで、毎年文化祭等日頃のサークル活動の成果を披露する場を設けます。
- ・学校や他の団体と連携した図書館利用のイベントなどを企画することにより、知り学ぶ図書館というイメージに加え、調べ・紹介・発信できる新しい図書館文化の構築を図りつつ、図書館利用層の拡大に努めます。
- ・ボランティアグループ等の協力を得て、保育所(園)や学校等での読み聞かせの実施や読書に親しむ環境づくりを行うとともに、学校図書館との連携に努めます。

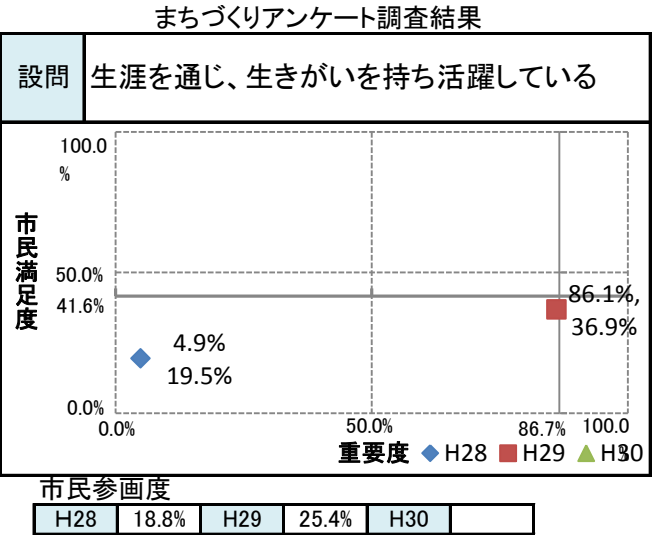
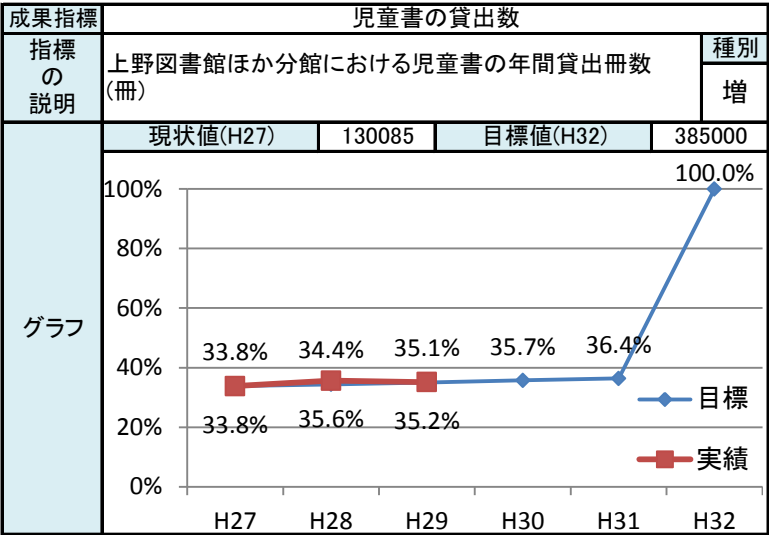
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算 H29決算
生涯学習推進事業 若者の社会参画として成人式の運営、中間層世代の参画を促すための初めての講師サポート事業、まちづくりにおける人材育成を目的とした生涯学習大学の開催など市民の学習意欲・社会参画に応じた学習・参画の機会を提供します。また、まちの活性化につなげるため、産学官の連携を推進し、多様な学習機会の提供に努めます。	初めての講師サポート事業の開催や人材育成を目的にさまざまな大学の講座を開催することで生涯学習の機会を提供した。	8,865 千円
		8,806 千円
図書館活動推進事業 図書館の役割や重要性について市民の理解が深まるよう、図書館を利用したイベントなどを企画し、市民のニーズを的確に把握しながら、新しい図書館の整備・充実に向けた市民意識の向上を図り、その実現をめざします。	図書館は、市民が求めるさまざまな情報を提供できる施設であることを周知するため、読み聞かせやナイトライブラリー、また、伊賀鉄道開業10周年企画展との共催事業である「でんしゃがはしるおはなし会」等を開催し、来館のきっかけをつくる中で、図書館をより身近に感じてもらい利用促進に繋げるよう努めました。	83,444 千円
		82,770 千円
子ども読書活動推進事業 家庭や図書館、学校等のそれぞれが連携し合うことで、子どもが自ら進んで読書に親しめる環境を整えます。また、市内で活動する読み聞かせボランティアグループの育成や支援にさらに取り組みます。	第二次伊賀市子ども読書活動推進計画に基づき、年度ごとに目標を設定し取り組むことで、子どもの読書活動を推進することができた。	0 千円
		0 千円
公民館活動事業 公民館活動のあり方(中央館・地区館・分館)を見直し、市内全域での時代に即した施設運営を進め、市民ニーズに合わせた学習機会や発表の場を提供するとともに、地域で活躍する人材を育成するなど事業推進を行うことにより地域教育力の高揚を図ります。	公民館職員を対象に地域リーダー育成のための研修会を開催した。	29,622 千円
		27,813 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	生涯学習施設の利用者数				図書の貸出者数																																												
指標 の 説明	生涯学習施設の年間利用者数（人）			種別	上野図書館ほか分館の年間図書貸出利用者数（人）			種別																																									
				増				増																																									
グラフ	現状値(H27)	104212	目標値(H32)	120000	現状値(H27)	88252	目標値(H32)	262000																																									
	 <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>100.0</td><td>86.8</td></tr><tr><td>H28</td><td>100.0</td><td>87.5</td></tr><tr><td>H29</td><td>100.0</td><td>90.8</td></tr><tr><td>H30</td><td>100.0</td><td>94.2</td></tr><tr><td>H31</td><td>100.0</td><td>97.5</td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr></tbody></table>				年度	目標 (%)	実績 (%)	H27	100.0	86.8	H28	100.0	87.5	H29	100.0	90.8	H30	100.0	94.2	H31	100.0	97.5	H32	100.0	100.0	 <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>100.0</td><td>33.7</td></tr><tr><td>H28</td><td>100.0</td><td>34.4</td></tr><tr><td>H29</td><td>100.0</td><td>35.3</td></tr><tr><td>H30</td><td>100.0</td><td>36.3</td></tr><tr><td>H31</td><td>100.0</td><td>37.2</td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr></tbody></table>				年度	目標 (%)	実績 (%)	H27	100.0	33.7	H28	100.0	34.4	H29	100.0	35.3	H30	100.0	36.3	H31	100.0	37.2	H32	100.0
年度	目標 (%)	実績 (%)																																															
H27	100.0	86.8																																															
H28	100.0	87.5																																															
H29	100.0	90.8																																															
H30	100.0	94.2																																															
H31	100.0	97.5																																															
H32	100.0	100.0																																															
年度	目標 (%)	実績 (%)																																															
H27	100.0	33.7																																															
H28	100.0	34.4																																															
H29	100.0	35.3																																															
H30	100.0	36.3																																															
H31	100.0	37.2																																															
H32	100.0	100.0																																															



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H29年度実績値(104,662人)とH28現状値(124,421人)から19,759ポイント減となったものの、H29目標値(109,000人)を4,338ポイント下回ったに留まった。その要因は、市展の開催場所変更等によるものであり、今後も市民ニーズにあった講座や事業を企画することから自主事業への参加促進に努めていきます。

指標2は、H29年度実績値(90,604人)とH28現状値(93,016人)から2,412ポイント減となり、H29目標値(92,500人)を1,896ポイント下回った。主な要因は、図書購入費の大幅な減により新刊等市民ニーズに応えにくい状況であったことが大きいと考えられる。

指標3は、H29年度実績値(135,399冊)とH28現状値(137,078冊)から1,679ポイント減であるが、H29目標値(135,000冊)は399ポイント上回った。その要因は、読み聞かせやイベント回数を開催したことによる。

市民満足度を高めるため、市民ニーズに応える新しい講座の開催に努め、図書館についてはイベントの開催による利用促進や居場所となる利用しやすい図書館づくりの工夫などを行うこととします。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初予算	成果の方向
生涯学習推進事業 若者や中間層にある世代に配慮した活動環境が必要である。	引き続き市民ニーズにあったテーマを設定し、初めての講師サポート事業、キャリア教育・郷土教育・カジダン養成など生涯学習活動の推進を図る。	10,888千円	→
図書館活動推進事業 図書購入費の大幅な減により、新刊購入やリクエストへの要望への対応が難しい等が課題となっている。	より多くの市民の利用促進を図るためには、市民ニーズに即した図書を充実させるとともに、図書館を利用されていない市民が図書館を利用いただけるよう取り組むほか、ホームページや広報による図書館活動の情報を発信するなどにより、市民の更なる利用を促進する必要がある。	85,655千円	→
子ども読書活動推進事業 読み聞かせやお話会などの取り組みを進めていますが、年齢が進むにつれて、読書時間、読書量が減少している。	家庭、図書館(図書室)、学校等が連携することで、本に親しむ環境を整え、子どもが自ら進んで読書に親しむよう取り組みを図っていく。	0千円	→
公民館活動事業 地区公民館、分館も含めて公民館事業(活動)のあり方を検討する必要がある。	分館の廃止に向けた取り組みを進めるとともに、分館のない地域も含め市全体で生涯学習を推進していくために、「地域における学びのワークショップ」を開催する。	28,315千円	→

子どもや若者が、健やかに成長する

教育委員会

- ・地域ぐるみできめ細やかな見守りや青少年との交流活動を行う青少年を育成する関係団体等を支援することにより、子どもたちが安心して成長できる住みやすいまちづくりを進めます。
- ・地域のボランティアの確保・育成を支援することにより、安心・安全な子どもの居場所づくりを進めます。

目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

[illegible]

目標の達成状況と結果分析【CHECK】 増＝単年度の目標（増加を目指す） 減＝単年度の目標（減少を目指す） 累＝累積値の目標

成果指標	青少年育成・体験事業参加者数																																																
指標 の 説明	教育委員会及び青少年育成団体が実施する体験教室、子ども教室への参加者数（人）			種別				種別																																									
				増																																													
グラフ	現状値(H27)	7000	目標値(H32)	7500	現状値(H27)		目標値(H32)																																										
	<table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>93.3%</td><td>93.3%</td></tr><tr><td>H28</td><td>94.7%</td><td>82.9%</td></tr><tr><td>H29</td><td>96.0%</td><td>68.8%</td></tr><tr><td>H30</td><td>97.3%</td><td></td></tr><tr><td>H31</td><td>98.7%</td><td></td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0%</td><td></td></tr></tbody></table>				年度	目標 (%)	実績 (%)	H27	93.3%	93.3%	H28	94.7%	82.9%	H29	96.0%	68.8%	H30	97.3%		H31	98.7%		H32	100.0%		<table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H29</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H31</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H32</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>				年度	目標 (%)	実績 (%)	H27			H28			H29			H30			H31			H32	
年度	目標 (%)	実績 (%)																																															
H27	93.3%	93.3%																																															
H28	94.7%	82.9%																																															
H29	96.0%	68.8%																																															
H30	97.3%																																																
H31	98.7%																																																
H32	100.0%																																																
年度	目標 (%)	実績 (%)																																															
H27																																																	
H28																																																	
H29																																																	
H30																																																	
H31																																																	
H32																																																	

まちづくりアンケート調査結果

設問 子どもも若者が、健やかに成長している

市民満足度

重要度	H28	H29	H30
0.0%			
16.7%	41.6%		
30.3%			32.9%
50.0%			
86.7%			
92.4%		53.7%	
100.0%			

重要度 ◆ H28 ■ H29 ▲ H30

市民参画度

H28	H29	H30
16.7%	30.3%	

課題と今年度の取組み案 【ACTION】

87

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】 人権生活環境部

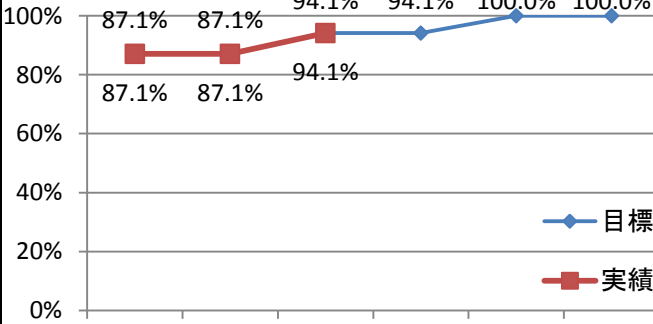
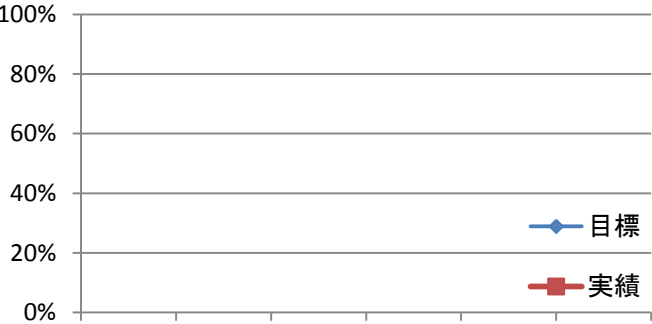
・外国人住民が多いことは本市の特性の一つであり、外国人が住みやすいまちは、日本人にとっても住みやすいまちであることを情報発信し、魅力ある多文化共生社会をめざします。

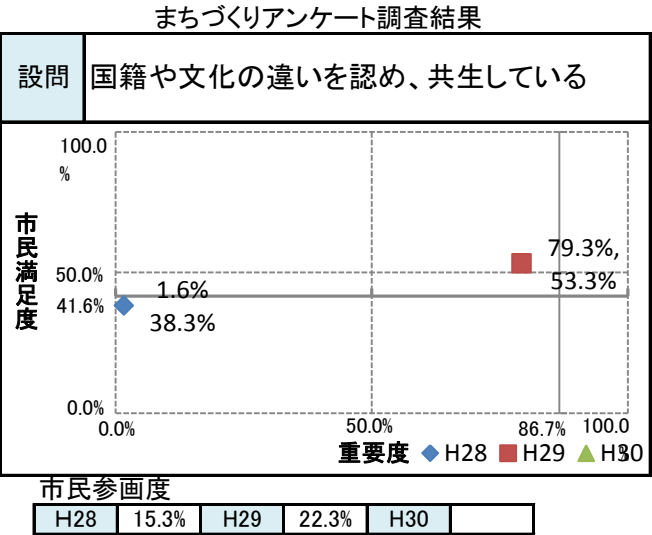
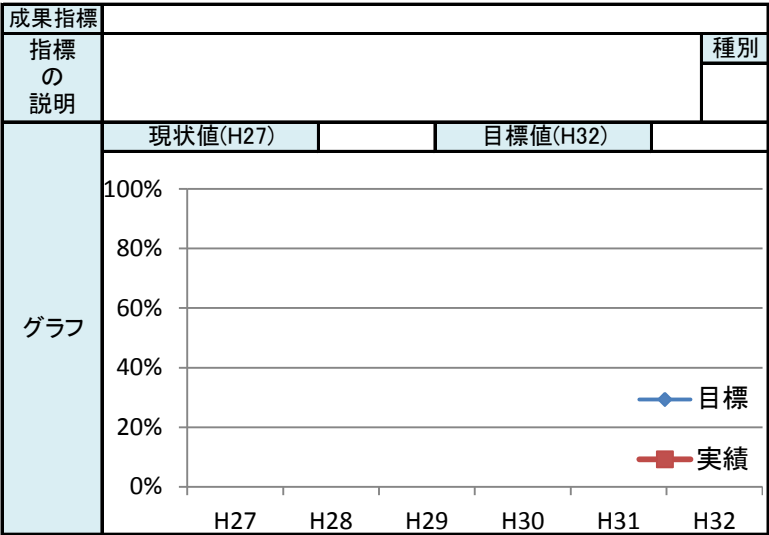
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算
		H29決算
多文化交流の促進 伊賀市国際交流協会やNPO等と連携し、多文化理解を深めるための講座やイベント等を実施します。また、多文化共生社会を推進するサポーターを養成し、地域や学校等での多文化交流を促進します。	・国際交流協会、NPOと協力し、国際交流フェスタや多文化共生理解講座や、地域で見守りおやこ防災事業を開催した。 ・多文化共生ミーティングを開催し、多文化共生推進に係る意見交換を行った。	15,365 千円
		24,178 千円
外国人住民支援の充実 伊賀市多文化共生センターにおいて、多言語での相談や生活支援を行うほか、必要な情報を集約し、発信するなど外国人住民への支援の充実を図ります。また、多文化共生にかかる日本人の相談窓口としての機能を充実させ、人や文化の交流を促進します。	・生活オリエンテーションや多言語相談により存住外国人の生活支援を行った。 ・多文化共生ミーティングを開設し、多文化、生活、イベント情報を多言語で提供した。	0 千円
		0 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	外国人住民が住んでよかったと感じる割合											
指標 の 説明	外国人住民アンケートで「伊賀市に住んでよかったと感じていますか」の設問において、「とても感じている」または「だいたい感じている」と答えた人の割合（％）			種別				種別				
				増								
グラフ	現状値(H27)	74.0	目標値(H32)	85.0	現状値(H27)		目標値(H32)					
												
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H27	H28	H29	H30	H31	H32



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

- ・指標1は、H29年度実績値(80.0%)とH28実績値(80.0%)から増減がなかった。生活オリエンテーションや多言語相談による在住外国人の生活支援を充実していくことが課題である。
- ・まちづくりアンケートについては、多文化共生に関する関心がそれほど高くはなく、外国人住民との交流の機会を増やすことが課題である。

課題と今年度の取組み案【ACTION】 新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初予算	成果の方向
多文化交流の促進 ・多文化共生嘱託員が市役所内の業務(通訳・翻訳)に多くの時間を必要とするため、多文化共生業務に時間を取れない状況にある。	・引き続き、庁内連絡会議において「やさしい日本語」による対応や、翻訳の外注・翻訳アプリの導入などの協力を求め、本来の業務が遂行できる体制を整える。 ・多文化共生嘱託員の能力を活かした、市民のニーズに合った多文化共生・国際交流事業を行っていく。	15,613千円	→
外国人住民支援の充実 ・多文化共生センターの機能を充実するためには、場所が手狭である。 ・多文化共生センターを活用した事業を行っていくうえで、ボランティア育成が必要である。	・新庁舎移転に伴う公共施設配置の見直しにおいて、旧市街地等に新たな設置先を検討する。 ・多文化共生センターの活動内容を市民に周知し、協力者を増やしていく。	0千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

企画振興部

・松尾芭蕉や横光利一、榊莫山、元永定正など偉大な文化人、芸術家を生み出した本市を誇り、若い世代へも裾野を広げ感性豊かな人づくり・地域づくりへの一役を担います。

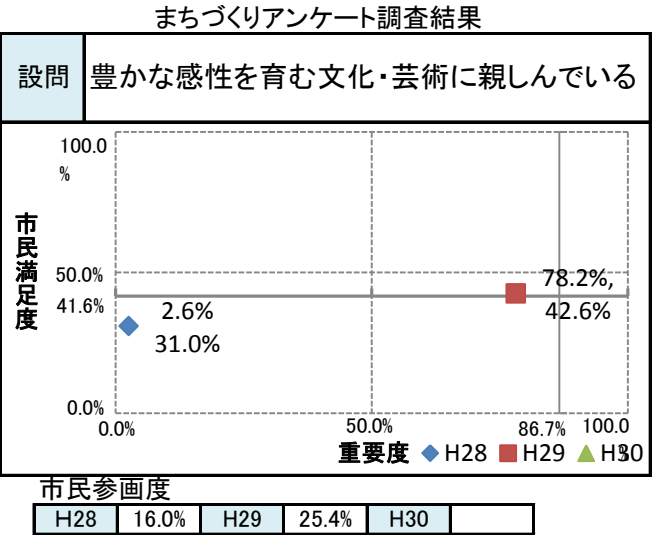
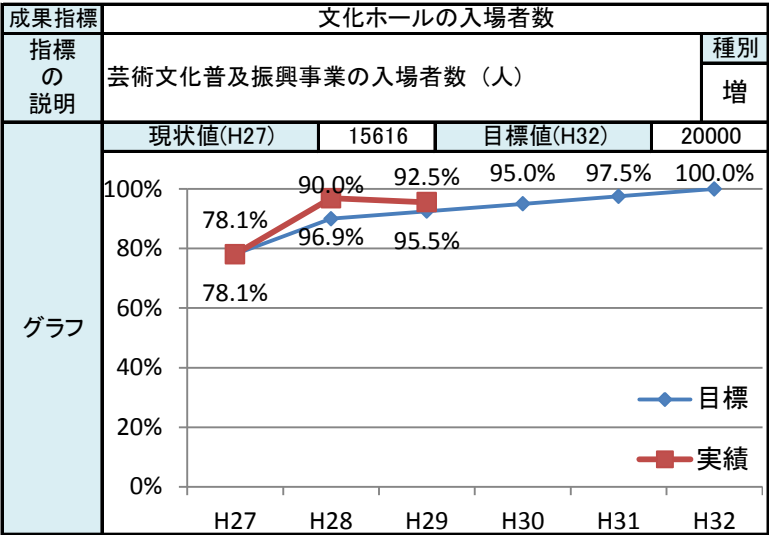
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算 H29決算
文化・芸術振興事業 だれもが気軽に文化芸術を楽しめるよう、機会の充実、市民美術展覧会や市民文化祭の運営を行い、市民の文化・芸術意識の向上を図ります。市民、芸術団体の活動支援を行い、文化芸術活動の担い手の育成を進めます。	・市展では開催時期、場所を3月に文化会館でと変更し、(公財)伊賀市文化都市協会の展示経験を発揮し、これまでとは違った効果的な展示を行いました。観覧者にも文化芸術に親しみ意識向上を図ることが出来ました。 ・市民文化祭は地域文化の振興、お互いの文化意識向上を図るため文化祭実行委員会に委託しました。	27,734 千円 30,677 千円
文化施設維持管理事業 文化芸術活動の拠点となる文化会館などの施設の適切な管理運営を行い、活動内容の向上や施設環境の維持向上に努めます。	・ホール4施設は(公財)伊賀市文化都市協会を指定管理者とし適正な施設の運営・管理を行いました。 ・公共施設最適化計画の伊賀支所周辺整備に係るふるさと会館大ホール機能廃止について説明を行いました。 ・各ホールとも老朽化が進み修繕が多発していることから優先順位を付け修繕を行ないました。	199,720 千円 199,105 千円
芭蕉翁顕彰事業 芭蕉翁の顕彰と、芭蕉文学と俳句文芸の調査研究・継承・啓発を行うとともに、俳句の文化的価値を世界へ発信する取り組みを進めます。芭蕉翁の生誕地として、市民に親しまれ、まちづくりにつながる事業や芭蕉翁記念館の運営を行います。また、人づくり・まちづくりにつながる新芭蕉翁記念館の整備・充実を進めます。	・第71回芭蕉祭を開催し芭蕉翁の顕彰及び俳句啓発を行いました。 ・俳句関連団体や関連自治体と連携し「俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会」を設立し取り組みました。 ・芭蕉翁記念館では企画展3回と特別展1回を開催し年間12,767人の入館者がありました。	40,747 千円 40,944 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	市民美術展覧会の出品者数、鑑賞者数				芭蕉祭献詠俳句等応募数																																																											
指標 の 説明	一般応募者数と鑑賞に訪れた人数の合計（人）			種別 増	芭蕉祭献詠俳句等応募数（俳句、連句、絵手紙、ポスター原画）（件）			種別 増																																																								
	現状値(H27)	2988	目標値(H32)	3000	現状値(H27)	39291	目標値(H32)	40000																																																								
グラフ	<table><thead><tr><th>年度</th><th>現状値</th><th>目標値</th><th>達成率</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>2988</td><td>3000</td><td>99.6%</td></tr><tr><td>H28</td><td>1938</td><td>3000</td><td>63.8%</td></tr><tr><td>H29</td><td>1488</td><td>3000</td><td>44.8%</td></tr><tr><td>H30</td><td>3000</td><td>3000</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H31</td><td>3000</td><td>3000</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H32</td><td>3000</td><td>3000</td><td>100.0%</td></tr></tbody></table>				年度	現状値	目標値	達成率	H27	2988	3000	99.6%	H28	1938	3000	63.8%	H29	1488	3000	44.8%	H30	3000	3000	100.0%	H31	3000	3000	100.0%	H32	3000	3000	100.0%	<table><thead><tr><th>年度</th><th>現状値</th><th>目標値</th><th>達成率</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>39291</td><td>40000</td><td>98.2%</td></tr><tr><td>H28</td><td>38640</td><td>40000</td><td>96.4%</td></tr><tr><td>H29</td><td>38160</td><td>40000</td><td>95.3%</td></tr><tr><td>H30</td><td>39300</td><td>40000</td><td>98.3%</td></tr><tr><td>H31</td><td>39800</td><td>40000</td><td>99.5%</td></tr><tr><td>H32</td><td>40000</td><td>40000</td><td>100.0%</td></tr></tbody></table>				年度	現状値	目標値	達成率	H27	39291	40000	98.2%	H28	38640	40000	96.4%	H29	38160	40000	95.3%	H30	39300	40000	98.3%	H31	39800	40000	99.5%	H32	40000	40000	100.0%
	年度	現状値	目標値	達成率																																																												
H27	2988	3000	99.6%																																																													
H28	1938	3000	63.8%																																																													
H29	1488	3000	44.8%																																																													
H30	3000	3000	100.0%																																																													
H31	3000	3000	100.0%																																																													
H32	3000	3000	100.0%																																																													
年度	現状値	目標値	達成率																																																													
H27	39291	40000	98.2%																																																													
H28	38640	40000	96.4%																																																													
H29	38160	40000	95.3%																																																													
H30	39300	40000	98.3%																																																													
H31	39800	40000	99.5%																																																													
H32	40000	40000	100.0%																																																													



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H29年度実績値(1,345人)とH28実績値(1,915人)から570ポイント減となり、H29目標値(3,000人)を1,655ポイント下回りました。その要因は開催期間、場所を変更し上野天神祭りで立ち寄った方の人数が減ったためと考えます。祭りの人手や天候に左右されず市展を目的に訪れた人数の把握が出来たと考えます。今後文化芸術に関心を持つ市民をさらに増やす方法を検討していくために有効と考えます。

指標2は、H29年度実績値(38,118件)とH28年度実績値(38,571件)から453ポイント減で、H29目標値(39,600件)を1,482ポイント下回りました。その要因は主に英語俳句部門での減少が影響しました。若い世代にも俳句に親しんでもらえるよう市内の小中高等学校への啓発が課題です。

指標3は、H29年度実績値(19,109人)とH28年度実績値(19,379人)で270ポイント減となりましたがH29目標値(18,500人)を609ポイント上回りました。その要因は市民の文化芸術への関心の高まりと自主事業の充実と考えます。老朽化による設備修繕は優先順位をつけ行なう必要があります。

まちづくりアンケートでは、市民満足度が42.6%と中央値より高く、市民が文化芸術に対する関心や機会が増加したものと考えます。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初予算	成果の方向
文化・芸術振興事業	・市民美術展覧会はよりよい環境、展示とするため開催後の運営委員やアンケートによる意見を参考に、改善に努めます。担い手の裾野を広げるため、特に高校生や若い世代が出展したいと思う市展となるよう取り組みをすすめます。 ・今後伊賀市が進める文化芸術、芭蕉顕彰、文学振興など文化振興の方針となるものを策定します。	25,427千円	→
文化施設維持管理事業	・公共施設最適化計画で機能廃止、縮小とした施設を計画的に進めるため、施設の利用特性や施設機能、経済性等を考慮し適切な運営方法を関係部署と協議しながら、市民への説明、理解が得られるよう取組を進めます。また、2期以降の個別計画についてスケジュール等の検討をしていきます。計画の進捗により生み出される財源をもって、今後維持する施設の大規模修繕を行なうことが可能となるため、修繕の優先順位を立てていきます。	201,429千円	→
芭蕉翁顕彰事業	・芭蕉翁記念館の整備については関係する部署等との連携を行い、新記念館の整備の方向性を早急に決定し、予算措置、事業計画の見直し、展示計画等の策定をはじめ整備を進めます。 ・芭蕉生家については現状の調査後整備方針を決定し、次年度に改修工事に着手します。整備とともに芭蕉関連施設の効果的な運営を検討していきます。	45,364千円	↑

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

教育委員会

・伊賀は、古くは都に接し畿内と東国を結ぶ東西文化の接点となった地域であり、特色ある歴史と豊かな文化を形成し、県内有数の文化財件数を誇ることから、これらの文化遺産を活用した魅力あるまちづくりをめざします。

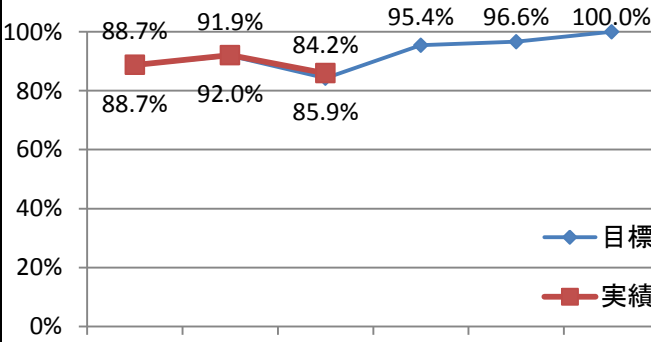
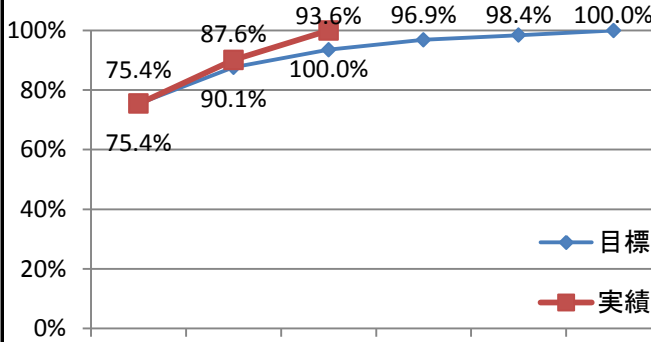
・城下町や宿場町では、伝統的な建物が減少して空洞化が目立ち、歴史的景観が失われつつあります。市民にとって制約の多い多少不便な場所であっても、歴史が息づくまちとして愛着を持ち、かつての賑わいを取り戻すことをめざします。

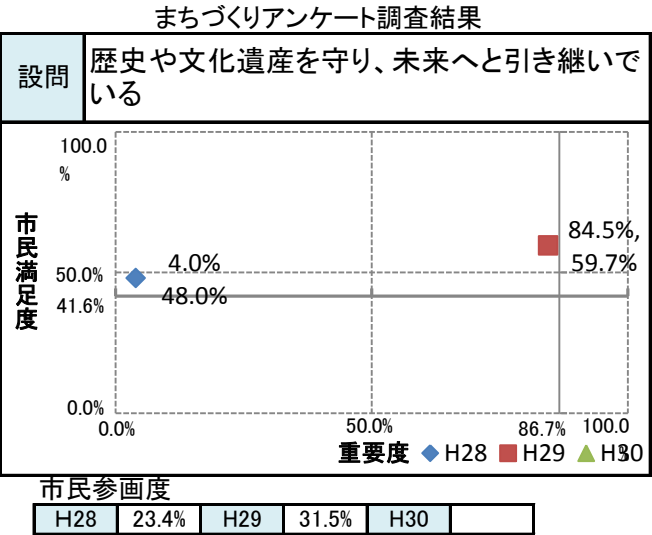
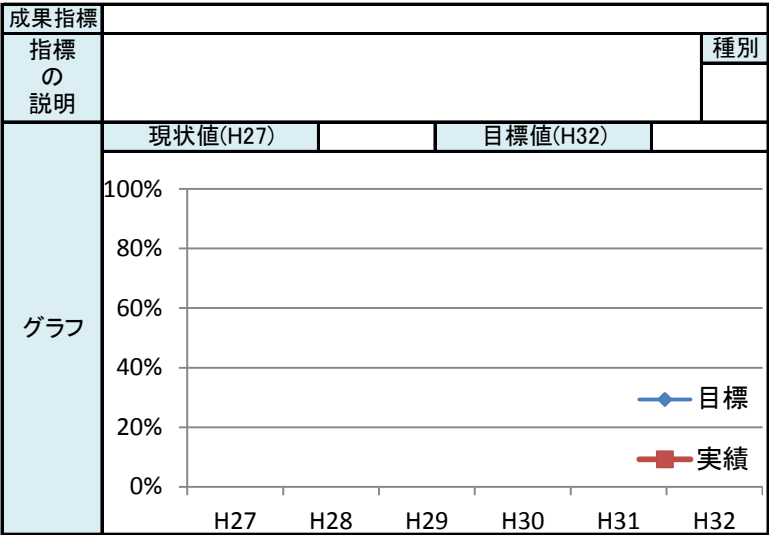
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算
		H29決算
文化財保護事業 開発にかかわる埋蔵文化財は、発掘調査を実施し記録保存を図ります。一般文化財は、調査により記録化を図り、保存すべきものを指定・登録します。史跡は文化財の価値をより高めるために、環境整備や史跡整備、修理を行います。無形(民俗)文化財は、後継者の育成と道具の修理等を支援します。有形文化財は、管理者と協議のもと防犯・防災を推進していきます。	・埋蔵文化財は、試掘・立会調査16件、本調査は有井遺跡約400㎡の発掘調査をしました。 ・川東春日神社拝殿の解体修理に着手しました(～34年度)。 ・上野天神祭のダンジリ行事では、魚町楼車の御簾を新調し、鍛冶町楼車の解体修理に着手しました(～31年度)。	40,836 千円
歴史まちづくり事業 上野城下町、観音寺と大和街道島ヶ原宿、大村神社と初瀬街道阿保宿の3つの重点区域において、歴史的風致形成建造物を指定し修景助成や、ポケットパーク、まち巡り拠点、古民家再生、道路美装化による歩行者空間の整備など、周辺の歴史的な風致の維持向上に努めます。	・庁内ワーキンググループ会議を開催し、進捗状況について確認しました。 ・重点地域である上野城下町区域において、地域の要望を取りまとめました。 ・国交省中部地方整備局管内の自治体と連携し、課題にかかる情報を共有するとともに、事業啓発に取り組みしました。	48,054 千円
市史編さん事業 『伊賀市史』全7巻のうち、未刊行の1冊を発刊し、全7巻を刊行します。	①『伊賀市史』刊行計画の第7冊目となる第7巻年表・索引を発刊し、全7巻の刊行を終了した。 ②発刊した『伊賀市史』第7巻年表・索引を市民センターや図書館等に348冊を寄贈し、188冊を販売した。 ③『伊賀市史』全7巻の正誤表を作成した。	0 千円
歴史資料の整理・保存・管理事業 編さんの過程で収集した歴史資料及び市内各施設に残る合併前の公文書等を整理し、将来にわたって活用できるようにするため、公文書館等を設置するなど、保存・管理体制の整備に取り組みします。	・市内で所蔵する個人等の所蔵文書14件の目録を作成しました。 ・公文書館を設置している静岡県磐田市(磐田市歴史文書館)と長野県松本市(松本市文書館)を視察し、整備方法を検討する参考としました。	0 千円
		0 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	文化財施設への入館者数				『伊賀市史』有償頒布数			
指標 の説明	市内の主な文化財施設への1日当たりの平均入館者数（人／日）			種別 増	『伊賀市史』の販売冊数（冊）			種別 増
	現状値(H27)	12.36	目標値(H32)	13.93	現状値(H27)	2165	目標値(H32)	2870
グラフ								



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H29年度実績値(11.97人/日)は、H27現状値(12.36人/日)より0.39ポイント減となり、H28実績値(12.82人/日)より0.85ポイント下回った。その主な要因は、上野歴史民俗資料館が29年2月末で閉館したことによると思われる。また、文化財の公開施設においても旧崇広堂を除けば減少傾向にあるため、周知に努める必要がある。

指標2は、H29年度の実績値が3,292冊となり、H29目標値(2,685冊)を607ポイント上回った。H27現状値(2,165冊)に対しては1,127ポイントの増となった。その要因としては、全巻刊行により事業及びその成果が広く認知されたことであるが、特に新刊刊行時は販売実績の伸びが顕著である傾向が強いと思われる。

まちづくりアンケート調査の結果で重要度が増した理由として、忍者や芭蕉、城下町など当市の文化遺産を活用したまちづくりの重要性が広く認知されてきた結果と思われる。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初予算	成果の方向
文化財保護事業 ・国史跡伊賀国庁跡の整備にかかる基本設計策定にあたり、当該史跡の価値を広く理解できるような整備を目指した設計にする必要がある。 ・史跡の伊賀国分寺・御墓山古墳・伊賀国庁跡の草刈り等が十分にできない状況にある。	・伊賀国庁跡の整備の基本設計策定にあたり、史跡の価値の理解を深めるとともに、地域の活性化の拠点となりうるような基本設計を策定するため、専門家による指導委員会を設置し、指導・助言を得る。 ・委託している草刈り作業の回数を減らすとともに、職員による草刈り作業を実施することにより、維持管理コストの縮減に努める。	49,596 千円	→
歴史まちづくり事業 ・計画全体の進捗管理が十分にできていないので、適切に管理できるよう努める必要がある。 ・各重点区域の課題を歴まち計画反映し、事業化を図る必要がある。	・計画の進捗管理については、庁内の関係各課と協議・調整を進める。 ・各重点区域の課題については、住民自治協議会等と協議し、実現可能な事業について整理し歴まち計画へ反映する。	0 千円	↑
市史編さん事業 (平成29年度をもって市史編さん事業は終了した。)	(平成29年度をもって市史編さん事業は終了した。)	60 千円	→
歴史資料の整理・保存・管理事業 ・市域の歴史資料及び合併前の公文書等の目録作成を行うとともに、保存・管理体制の整備に取り組みます。 ・市史編さん事業を行ってきた青山支所を公文書館としてそのまま使用することはできない可能性が強く、加えて、一定の時期までに結論を出す必要がある。	・各種資料等の目録作成を努めるとともに、保存・管理に係る体制整備に向けて先進地の情報収集を行います。 ・公文書館については、管財課等と協議・調整しながら候補地の選定に向けて協議を行います。	0 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

企画振興部

- ・地元サッカー伊賀FCくノーや全国高校駅伝常連校の伊賀白鳳高校の技能や知名度を活かすまちづくりを進めます。
- ・市民が主体となった総合型地域スポーツクラブや、スポーツ団体が持つ専門性をスポーツ施設の管理運営に活かすまちづくりを進めます。
- ・伊賀市公共施設最適化計画により、持続可能なスポーツ施設を活かしたまちづくりを進めます。
- ・地域やスポーツ団体等が主体的に開催するスポーツイベントを通して地域の魅力や特性を広く情報発信（アピール）するまちづくりを進めます。

目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算
		H29決算
スポーツ振興事業 地域が主体となった気軽に楽しむスポーツを推進するため、スポーツ推進委員活動やスポーツ組織・団体活動の支援を行い、生涯を通じて健康な心と体を育みます。種目別の競技スポーツ活動を奨励するとともに、市民参加型スポーツイベントの開催や魅せるスポーツ活動への支援を行います。	・一人でも多くの市民にスポーツに親しんでいただくため、スポーツ推進委員を対象に、ニュースポーツや障害者スポーツなどの研修を実施した。 ・スポーツ団体やスポーツ推進委員、地域住民の協力のもと、青山つつじクォーターマラソン、伊賀上野シティマラソン、市民スポーツフェスティバルを開催した。	25,718 千円
		24,214 千円
スポーツ施設整備・維持管理事業 伊賀市公共施設最適化計画に基づき、持続可能なスポーツ施設整備を計画的に行います。スポーツ施設を安全かつ快適に利用できるよう維持管理の充実に努めるとともに、必要な修繕・改修を計画的に行います。	・地域の利用者に限定されいた青山上津体育館・グラウンド、青山博要体育館・グラウンドを伊賀市公共施設最適化計画に基づき体育施設条例から削除し、神村学園や地元住民自治協議会へ貸与した。 ・体育施設を指定管理者制度により民間のノウハウを活用し、サービス向上、施設の有効活用及び管理経費の削減を図った。	136,593 千円
		140,629 千円
三重とこわか国体推進事業 三重とこわか国体（第76回国民体育大会）の開催に向けた準備を進めます。	・国体推進係の正規職員を2名増員した。 ・第76回国民体育大会伊賀市準備委員会設立総会並びに伊賀市準備委員会第1回総会を開催した。 ・市で開催する5競技について、平成29年度に開催された愛媛国体の本大会並びに大会開催後の事業説明会を視察した。また、福井県で開催された剣道・ハンドボール・クレー射撃のリハーサル大会を視察した。	5,101 千円
		3,951 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

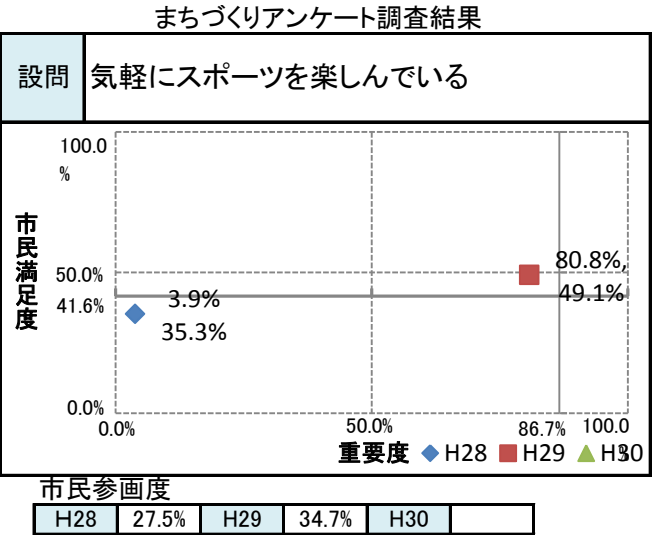
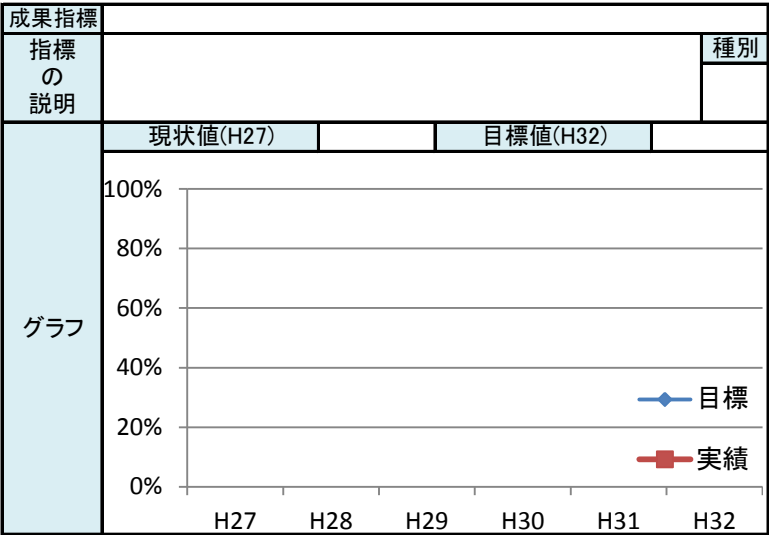
増 = 単年度の目標（増加を目指す） 減 = 単年度の目標（減少を目指す） 累 = 累積値の目標

成果指標	スポーツイベントへの参加者数				スポーツイベントの参加者数2			
	指標の説明	現状値(H27)	目標値(H32)	種別 増	指標の説明	現状値(H27)	目標値(H32)	種別 増
グラフ	市主催のスポーツイベント（教室含む）への市民の参加者数（人）	4132	5000		市主催のスポーツイベント（教室含む）への参加者（人）	7603	8000	

現状値(H27)	4132	目標値(H32)	5000
現状値(H27)	7603	目標値(H32)	8000

82.6%	86.0%	89.0%	92.0%	95.0%	100.0%
82.6%	73.5%	70.6%			
			目標		
			実績		

95.0%	87.5%	90.6%	93.8%	96.9%	100.0%
95.0%	85.4%	74.7%			
			目標		
			実績		



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

重要度順位が47施策中39位と低いのは、医療等生命の危険に関わる施策ではないので、当然の結果といえるが、今後は気軽にスポーツを楽しむことによって、健康寿命の延長に効果があると考えていただける様努めていきたい。満足度が47施策中14位の結果については、事業自体は概ね成功していると言えると考えられる。また市民参画度の上昇は喜ばしいことではあるが、これはH28に比べH29の総事業参加者数が6,829人から5,978人と851人減少したが、市民参加者数がH28が3,673人、H29が3,530人と143人の減少となったため、市民の参画割合数は減少しているものの、割合としては上昇したと思われる。H30は総事業参加数の増加と市民参画度の上昇を目標にする。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初予算	成果の方向
スポーツ振興事業 ・一人1スポーツの実現に向け、市民が主体的に気軽にスポーツ活動に参加、参画できるしくみをつくる必要がある。 ・生涯スポーツ都市実現に向けた具体的なスポーツ振興事業の検討が必要である。 ・伊賀市体育協会及び伊賀市スポーツ少年団事務局の自主運営化について検討する必要がある。	・スポーツ推進委員による市民へのスポーツ活動を推進するため、だれでもができるニュースポーツ(ポッチャ)の研修を実施する。 ・スポーツフェスティバルについては地区対抗での競技運営になっているが、地区割りに限らず参加できる種目数を増やす。 ・生涯スポーツ都市実現に向けた骨子を検討する。 ・伊賀市体育協会及びスポーツ少年団役員と意見交換会を開催する。	24,705 千円	→
スポーツ施設整備・維持管理事業 ・老朽化している施設を計画的に改修整備していくため、伊賀市に見合った体育施設の最適化を着実に進める必要がある。 ・施設の維持管理について、民間事業者だけでなく、体育協会などの各種団体のノウハウも活用して実施できないか検討する必要がある。	・各施設ごとの利用状況などを調査し、また利用者やスポーツ団体などの意見を踏まえ施設の再配置計画策定に向けて取り組む。 ・今年度予算措置しているスポーツ施設再配置計画支援業務について早急に進める。	130,296 千円	→
三重とこわか国体推進事業 ・国体開催が正式決定されるため組織を充実する必要がある。 ・県準備委員会や競技開催市町との連絡調整、情報共有・収集が必要である。 ・各競技開催に向けて会場設営や選手輸送、警備など計画を作成する必要がある。 ・高校総体開催年であり、選手などの受入や会場設営並びに大会運営のための人員を確保する必要がある。	・正式決定後早期に伊賀市準備委員会を伊賀市実行委員会に改組し、また庁内組織体制も構築し国体準備の本格化に向けて体制を整える。 ・各種会議や本年度福井県で開催される大会の視察を実施し、伊賀市での開催に必要な事項について検討する。 ・前年に視察した愛媛国体の資料などから伊賀市会場での会場設営等の設計や広報、市民運動、競技運営等にかかる基本計画の策定を行う。 ・高校総体開催に向けて各種マニュアルの作成や当日運営に関わる人員の養成を実施する。	6,745 千円	↑

6-3-1
市民活動

市民活動やボランティア活動が、
活発に行われる

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

企画振興部

・補完性の原則のもとに、自治会をはじめとする各種団体や市民公益活動団体等とともに地域課題を解決するため、それぞれの専門性を活かし連携・協力のもとに、地域が主体的にまちづくりに取り組む伊賀流自治を推進し、自主自立した魅力ある地域づくりをめざします。

目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算
		H29決算
市民活動支援事業 市民の自主的なまちづくり活動を支援し、個性的で魅力あふれる地域づくりを推進するため、「地域活動支援事業」の実施と、成果報告会において効果等を検証し制度の充実に努めます。また、市民活動団体が安定的、継続的に活動していけるよう、法人化やコミュニティビジネス、団体の組織、事業、資金調達力等の基盤強化の支援を進めます。	・地域活動支援事業について成果報告会を行うことにより、効果と向上性について検証しました。 ・ゆめぼりすセンターの管理・運営等を市直営で行うことにより、各団体等の基盤強化に向けた市民活動の支援を行いました。	17,802 千円
		19,578 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	本市で活動するNPO法人の数				市民活動団体登録数			
	三重県により認証を受けた市内に事務所を有するNPO法人の数			種別 増	市民活動支援センターにおける市民活動登録団体の数			種別 増
グラフ	現状値(H27)	55	目標値(H32)	63	現状値(H27)	280	目標値(H32)	350

成果指標					種別
指標 の 説明					
グラフ	現状値(H27)			目標値(H32)	
					
	100%				
	80%				
	60%				
	40%				
	20%				
	0%				
目標					
実績					
H27					
H28					
H29					
H30					
H31					
H32					

「成果指標」 「まちづくりアンケート」 結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H29年度実績値(56)とH28実績値(57)から1ポイント減となり、H29目標値(58)を達成できなかった。H29年度は新規登録2件、解散等3件であり、引き続き市民活動の支援を行うことにより、意識の醸成を図ることが重要と考える。 指標2は、団体数が増加しており活動が展開されていることがうかがえる。今後も継続的に増加し続けることは無いと考えるが、しばらくは微増の傾向であると考え。 まちづくりアンケート調査結果は、重要度はわずかに上昇、満足度は高い水準を維持していることから、施策の関心が高まっていることがうかがえる。	
---	--	--

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H30当初 予算	成果の 方向
市民活動支援事業 地域活動支援事業の申請件数が減少しています。	地域活動支援事業については、市ホームページや広報等を活用し周知を行います。 また、市民活動支援センターを積極的に活用いただくため、当センターの取組み等を市広報等で周知することにより、市民活動の更なる活性化を促します。	23,178 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

企画振興部

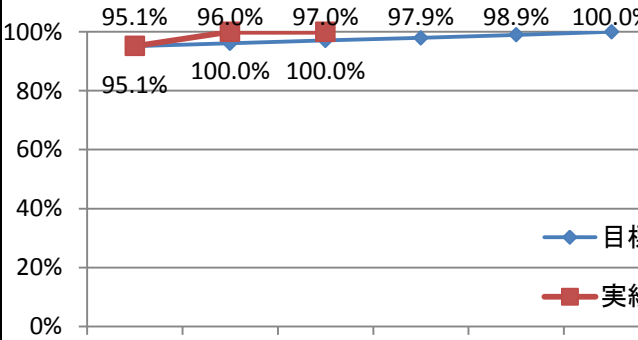
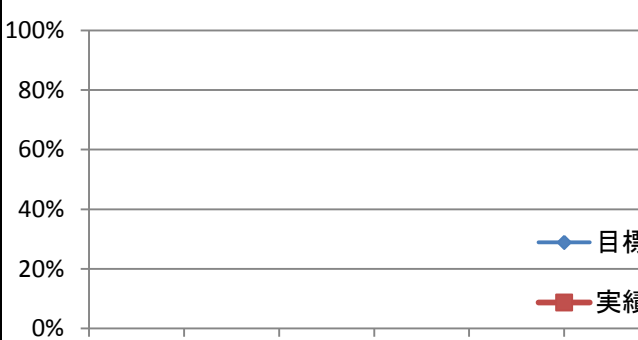
・人口減少、少子高齢化といったまちづくりの諸課題を解決するため、高等教育機関と産業団体、市がより連携を深め、課題解決に向けた取り組みを推進します。

目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H29当初予算
		H29決算
産学官連携の推進 三重大学が設置する三重大学地域拠点伊賀サテライトと連携・協力し、市内外での教育・文化・研究の推進を図るとともに、本市のまちづくりについての研究活動を行います。さらに、同大学に加え、多様な知見を本市のまちづくりにつなげていくため、他の大学等との連携・協力を推進します。	・三重大学伊賀連携フィールドに参加し、三重大学、上野商工会議所、関係団体等と情報共有を図るとともに、連携フィールドの事業運営等に補助を行った。 ・三重大学が当市に国際忍者研究センターを設置し、忍者研究が推進された。	0 千円
		0 千円
高大連携事業の促進 高等教育機関と連携し、市内中・高校生が本市のまちづくりに参画できるしくみをつくれます。	・市民との協働によりシティプロモーションを推進するため開催した「まちづくりラウンドテーブル」では、高校生をはじめとする若者が多く参加し、伊賀市の未来について考え、意見を出し話し合う機会となった。 ・地方創生推進交付金を活用した「IGABITO育成促進事業」において、市内県立高校の取組を支援した。	4,761 千円
		4,470 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	産学官連携による講座等の参加者							
指標 の 説明	三重大学連携フィールドが主催する講座等への参加者数 (人)			種別				種別
				増				
グラフ	現状値(H27)	1155	目標値(H32)	1214	現状値(H27)		目標値(H32)	
								
	95.1% 96.0% 97.0% 97.9% 98.9% 100.0% 95.1% 100.0% 100.0%							